



噴煙を上げる浅間山をバックに

浅間山の南に位置する奥三界山（300名山）と小秀山（200名山）である。こういった山になるといつも見かける人が多くなる。K ワギさんもその一人、彼とは海外の山のことを話すときは多分私が一方的に話していたものと思われ、今回彼の海外登山経験を聞いたらヒマラヤのメラピーク（6421m）に登った経験もあるという。私なんかはるかに及ばない。“昨年3月に西吾妻岳で会いましたねエ”と挨拶された人もいた。今回は男11人、女7人の構成である。ツアーリーダーは花岡さんと奥谷さん。花岡さんはずいぶん背中が丸くなってきた。180cmを超える長身であるので、人と話すときに背中を屈めるのが固定化されてしまったのかも知れない。

① 奥三界山（1810m）

林道がかなり上の方まで入っていて1500mくらいまであるかと思われる。交互にこの林道を歩いたり山道を歩いたりを2回ほど繰り返して高度を上げてゆく。特に山道の部分は勾配がきついのでケッコウ厳しい。



水芭蕉

かなり上の方でも豊富な水量の沢がある。このあたりからまた勾配がきつくなるが長野と岐阜の県界尾根あたりに出ると勾配は緩くなって水芭蕉などが咲いていたりする。道は楽にはなったがこの道が長い。いつになったら頂上に着くのかと嫌になる。山頂からはわずかに噴煙を上げる浅間山が近くに見える。



山頂部近くの沢での休憩



② 小秀山



第3高原からの小秀山

前日に引き続いて早朝 4 時には朝食を食べて宿のバスで登山口へ向かう。この日も林道を 40 分ほど歩いて登山道に入る。高度差は前日より多いのであるが、勾配が少ないのでそれほどきつさは感じないで済む。このところ靴マーク 2 とか 3 ばかり歩いていたので今回の靴マーク 4 はきついなあと覚悟をしていたのであるが、まあ何とか耐えた。しかし兜岩の直下は少しきつくなる。そこを過ぎると第 1 高原、第 2 高原、第 3 高原と見晴らしのよい場所が次々に現れる。前日の快晴に比べると少し雲があつて浅間山は見えなかったが、まあ晴れのうちである。



両日ともに9時間少々 of 行動であったが、この程度を長いと感じられるようになってしまった。

これで200名山は72座、300名山は70座となった。日本100名山の時のように全部やっしまおうという気にはならない。南アルプスの鋸岳や北海道の山のように今の俺の技量では難しくなってしまった山が多すぎる。



シャクナゲの蕾

